



町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元気・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

子どもを歓待し、承認し、祝福する

2月9日（月）、滑川町学校保健委員会が開催されました。女子栄養大学の久保田美穂先生においでいただき、「もしかして思春期？～心も体も健康な子どもたちを育てていくために～」という演題でご講義いただきました。

私は、中学校の保健体育科の教師でしたので、まさに「思春期」の中学生とお付き合いしてきたことになります。関わった生徒を数えると1万人を超えることになります。その経験から言えることは「子どもというのは、丁寧に扱わないとちゃんと育ってくれない」ということです。

渡辺京二という作家がいます。この人の作品で、「逝きし世の面影」という小説があります。そこには、「日本人は、子どもをととても大切にすると幕末の日本を訪れた外国人が驚いている様子が描かれています。また、イザベラ・バードという女性が書いた「日本奥地紀行」という紀行文には、明治初期の日本人が「子どもをととても可愛がっている」とあります。

今でも「七五三」という伝統行事がありますが、かつて日本には「子どもは神の子」という思想、信仰がありました。神の子、つまりこの世のものではないということです。したがって子育ては、「この世ならざるものをこの世のものにする」「あちらの世界からこちらの現実の世界に連れてくる」営みということになります。だから、傷つきやすい子どもを丁寧に扱ってこちらの世界にソフトランディングさせるという知恵がありました。

先日、「子どもの自殺、年間532人」というニュースがありました。問題の背景に、現在の大人達が先人の知恵を忘れてしまい、子どもの扱い方が雑になっていることがある」との指摘もあります。

ところで、2月7日（土）、コミュニティーセンターで毎年恒例の「十代からのメッセージ～青少年の主張大会～」という行事がありました。その中で「反抗期から学んだ大切なこと」と題するすばらしい発表がありました。一部を紹介します。

大人のいうことを素直に聞けず、いつもイライラして「ウザい」「ダルい」「分かっている」と言って反抗的な態度をとっていました。他にも、当たり前だと思っていた世の中の価値観やルールにも疑問を持ち、今まで何でも言われた通りにしていたことを、自分で考えたい、やってみたいという気持ちが生まれました。

「親や教師の言うことの全てが気に入らない」誰でもこんな時期があります。「自分の思春期の頃を思い出した」そのような方もいらっしゃるのではないでしょうか。

思春期、反抗期にある子どもに私達はどうか接したらよいのでしょうか。昔の人は子どもを丁寧に扱いました。では、子どもに丁寧に接するとはどういうことなのでしょうか。私は、「子どもを敬する」ということが大事だと考えます。そして、具体的には、子どもを「歓待し、承認し、祝福する」ことが大切です。発表の中で、お母様の言葉が紹介されました。

ある時、そんな様子を見ていた母が、「きっと反抗期に突入したんだね。でもそれは悪いことではないんだよ。大人へと成長する過程で必要な『自立』の証なんだよ、だから大丈夫だよ。」

お母様は、反抗する子どもを喜んで受け入れ（歓待）、反抗する子どもをそのまま認め（承認）、自立の証として祝っています（祝福）。

お母様の「歓待し、承認し、祝福する」言葉を受けて、発表者は、以下のように語っています。

反抗期と聞くと決していいイメージはなかったので、大丈夫と言われておどろいたのと同時に、おかしいことではないんだと安心しました。

お母様の言葉によって、大人の言葉には「あなたが大切だよ」というメタメッセージがあることを知った発表者は、担任の先生、部活の顧問、友人、家族の言葉のありがたさに気づきました。私は、発表者のお母様に「子どもを敬する」ことのひとつのモデルを見い出しました。私達は、お母様の知恵に学ばなければなりません。

「鬼神を敬して之を遠ざく」（論語）…たとえ相手が恐ろしい神であっても「敬意」は伝わるものです。



図書館からのおすすめ絵本

図書館オリジナルキャラクター
ブックろう

図書館では、家族と一緒に本を読むことで、読書に親しんでもらうとともに、家庭内のコミュニケーションを深めることを目的とした「家読」(家庭読書)を推進しています。こどもも大人も楽しめる、家読にぴったりの絵本をご紹介します♪



『ようちえんのいちにち』

こんな人におすすめ

春からはじめての幼稚園のお子さんへ

幼稚園に通うこどもたちは、どんな1日を過ごしているのでしょうか。くまの幼稚園の年中さんで、すみれ組のあかりちゃんは、仲良しのさっちゃんと一緒にバスに乗って登園します。園庭で遊んだり、お歌を歌ったり、お誕生日会をしたり…。さて、お昼になったら、みんなが待ちに待ったお弁当の時間。今日のお弁当は、何でしょう!?

こども目線で見ると幼稚園の1日が、優しいタッチの絵で描かれています。これから幼稚園に行く子の心強い絵本になってくれるでしょう。大人が読んでも、微笑ましくなるシーンがたくさんあります♪

期待と不安が入り混じるこの季節に、親子で一緒に読みたい1冊です。

※この本は、滑川町立図書館に所蔵があります(貸出中のときは予約ができます)

『ようちえんのいちにち』
おか しゅうぞう 作
ふじた ひおこ 絵
佼成出版社

文化財シリーズ!
第13回

「滑川町の歴史」 part 13

古墳時代の滑川町～古墳を飾る埴輪～人物埴輪と装い～

人物埴輪には、様々な装いの表現がされています。髪型では、男子は美豆良みずらと呼ばれ、両耳の近くに髪を束ねる上げ美豆良が多く見られます。中には頭に冠かんむりや笠、頭巾ずきんなどが表現されるものもあります。女子は、頭の上で前後に折り返し束ねた髪型こぶんしまだ しまだ(古墳島田・島田まげ)をしており、頭に粘土板を乗せて表現されることが多いです。

服装では、上衣と男子がズボン状の服、女子はスカート状の服が基本であったと考えられ、表現が見られます。男子は立派な衣装の貴人や甲冑を着た武人など、衣装表現の違けさじょういいから職業や身分などが分かるものがあります。女子では、タスキや袷袢あはだま状衣などの表現が見られます。

アクセサリは、特に耳環や勾玉まがたまなどの玉類を身に付ける様子が表現されます。耳環は耳の付近に粘土紐などで表現され、玉類は首の部分に丸玉のみの表現や丸玉と勾玉が交互の並ぶ表現など様々な表現があります。

滑川町出土の埴輪でも、男子では美豆良が見られ、女子では古墳島田で髪をまとめる様子が、紐をねじったように表現されたり、タスキ掛けの表現が見られます。また、勾玉や耳環を身に着けている様子も見ることができます。



エコミュージアムセンター
オリジナルキャラクター



古墳時代の装い(イメージ)

★町内古墳出土の埴輪の一部と勾玉などのアクセサリをエコミュージアムセンターにて展示します!

○展示期間: 3/3(火)～3/29(日)

10:00～17:00

(毎週月曜日、3/15、20は休館日のため休展)



女子の古墳島田と男子の美豆良



勾玉・丸玉・タスキ掛け・耳環の表現